

史跡斎宮跡

平成30年度現状変更緊急発掘調査報告

令和2（2020）年3月

明和町

序

史跡斎宮跡は、昭和54年3月27日に国史跡に指定を受け、平成31年3月史跡指定40周年を迎ました。この間、斎宮歴史博物館による調査・研究が進められ、「幻の宮」と言われた斎宮の実態が解明されつつあります。特に、平成28年度からは史跡西部の竹川地内において、飛鳥時代の「初期斎宮」に関わる学術調査が進められています。今年度の調査では門遺構や南北に掘立柱建物が規則的に配置されていることが判明し、天武天皇の娘で実在が確認できる最初の斎王・大来皇女に関連する可能性が指摘されています。近年の斎宮跡に関する目覚ましい調査成果には、町内のみならず全国的に注目が集まっています。多くの方が明和町を来訪され発掘調査を直接ご覧いただき、歴史の証人になつていただければ幸いです。

また、今年度は斎宮歴史博物館が開館30周年、いつきのみや歴史体験館が開館20周年を迎え、まさに斎宮跡にとって記念すべき一年でありました。同時に、昨年5月には「平成」から「令和」へと年号が改元され、天皇皇后両陛下の伊勢神宮参拝に関する報道などを通じて、皇室と関わりの深い伊勢神宮や斎宮への関心が高まっています。明和町では、「明和町歴史的風致維持向上計画」や「日本遺産」のブランドを糧として、史跡内の環境整備と斎宮跡に関する積極的な情報発信を進めるとともに、史跡の保存・活用を一層図ってまいります。

さて、本書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった12件の結果についてまとめたものです。調査に際しご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

令和2（2020）年3月

三重県多気郡明和町

町長 世古口 哲哉

例 言

- 1 本書は、平成30（2018）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第194-2・3・9・12次調査は事業者が費用を負担したが、それ以外について、国庫および県費の補助金を受けて実施している。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6AL13）については、斎宮歴史博物館2003『史跡斎宮跡 平成13年度発掘調査概報』による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構・遺物の時期区分については、斎宮歴史博物館2019『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査 出土遺物編』を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
SA : 墓 SB : 掘立柱建物 SD : 溝 SH : 穫穴建物 SK : 土坑
- 8 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、山中由紀子・川部浩司（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、味噌井拓志（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は川部・味噌井が担当した。

目 次

I	前言	1	6	第194-6次調査	（山中）12
II	調査報告		7	第194-7次調査	（山中）12
1	第194-1次調査	（川部）3	8	第194-8次調査	（山中）14
2	第194-2次調査	（山中）4	9	第194-9次調査	（山中）14
3	第194-3次調査	（山中）8	10	第194-10次調査	（山中）16
4	第194-4次調査	（山中）9	11	第194-11次調査	（山中）17
5	第194-5次調査	（山中）11	12	第194-12次調査	（山中）17
				付編 史跡現状変更等許可申請	（味噌井）21

表・挿図目次

第1表	史跡現状変更等許可申請の推移
第2表	第194次調査 遺構一覧表
第3表	第194次調査 出土遺物一覧表（1）

第4表	第194次調査 出土遺物一覧表（2）
第5表	平成30年度現状変更等許可申請一覧

第1図	発掘調査位置図
第2図	第194-1次調査区位置図
第3図	第194-1次調査 遺構平面図・土層図
第4図	第194-1次調査 遺物実測図

第5図	第194-2次調査区位置図
第6図	第194-2次調査 遺構平面図・土層図
第7図	第194-2次調査 土層図
第8図	第194-2次調査 遺物実測図

- 第9図 八脚門（SB6850）周辺の遺構配置図
 第10図 第194-3次調査区位置図
 第11図 第194-3次調査 遺物実測図
 第12図 第194-3次調査 遺構平面図・土層図
 第13図 第194-4次調査区位置図
 第14図 第194-4次調査 遺構平面図・土層図
 第15図 第194-4次調査 遺物実測図
 第16図 第194-5次調査区位置図
 第17図 第194-5次調査 遺構平面図・土層図
 第18図 第194-6次調査区位置図
 第19図 第194-6次調査 遺構平面図・土層図
 第20図 第194-7次調査区位置図
 第21図 第194-7次調査 遺構平面図・土層図

- 第22図 第194-7次調査 遺物実測図
 第23図 第194-8次調査区位置図
 第24図 第194-8次調査 遺構平面図・土層図
 第25図 第194-9次調査区位置図
 第26図 第194-9次調査 遺構平面図・土層図
 第27図 第194-9次調査 遺物実測図
 第28図 第194-10次調査区位置図
 第29図 第194-10次調査 遺構平面図・土層図
 第30図 第194-11次調査区位置図
 第31図 第194-11次調査 遺構平面図・土層図
 第32図 第194-12次調査区位置図
 第33図 第194-12次調査 遺構平面図・土層図

写真図版

- 写真図版1 第194-1次 調査区1 全景（南から）
 写真図版2 第194-1次 調査区2 全景（南東から）
 写真図版3 第194-2次 調査区1 北トレンチ 全景
 SB6850・SA6849（西から）
 写真図版4 第194-2次 SB6850（南から）
 写真図版5 第194-2次 SB6850 南西隅柱穴（北西から）
 写真図版6 第194-2次 SA6849 柱穴土層断面（南から）
 写真図版7 第194-2次 SD11265（北から）
 写真図版8 第194-2次 SD11265 土層断面（北から）
 写真図版9 第194-2次 調査区1 西トレンチ 全景
 （北から）
 写真図版10 第194-2次 調査区1 東トレンチ 全景
 （北から）
 写真図版11 第194-2次 調査区1 南トレンチ 全景
 （東から）
 写真図版12 第194-2次 調査区1 東トレンチ 東拉張部
 全景（北東から）
 写真図版13 第194-2次 調査区1 東トレンチ 西拉張部
 全景（東から）
 写真図版14 第194-3次 地点1 調査区2（南から）
 写真図版15 第194-3次 地点1 調査区3（南東から）
 写真図版16 第194-3次 地点2 調査区3（北東から）
 写真図版17 第194-3次 地点3 調査区1（南から）
 写真図版18 第194-3次 地点3 調査区2（西から）
 写真図版19 第194-3次 地点3 調査区3（東から）

- 写真図版20 第194-3次 地点3 調査区4（東から）
 写真図版21 第194-4次 調査区1 全景（東から）
 写真図版22 第194-4次 SH11267 カマド 土器出土
 状況（東から）
 写真図版23 第194-4次 SH11267 土坑 土器出土状況
 （南東から）
 写真図版24 第194-4次 調査区2 全景（東から）
 写真図版25 第194-5次 調査区1 全景（西から）
 写真図版26 第194-5次 調査区2 全景（西から）
 写真図版27 第194-6次 調査区 全景（南東から）
 写真図版28 第194-7次 調査区7 全景（北西から）
 写真図版29 第194-7次 調査区1 全景（北から）
 写真図版30 第194-7次 調査区3 全景（北から）
 写真図版31 第194-7次 調査区4 全景（北から）
 写真図版32 第194-8次 調査区 全景（北東から）
 写真図版33 第194-9次 調査区1 全景（南西から）
 写真図版34 第194-9次 調査区2 全景（北東から）
 写真図版35 第194-9次 調査区3 全景（北東から）
 写真図版36 第194-10次 調査区 全景（北から）
 写真図版37 第194-11次 調査区 全景（西から）
 写真図版38 第194-11次 調査区 土層断面（南西から）
 写真図版39 第194-12次 調査区1 全景（北西から）
 写真図版40 第194-12次 調査区2 全景（南西から）
 写真図版41 第194-12次 調査区1 土層断面（西から）
 写真図版42 第194-12次 調査区2 土層断面（東から）

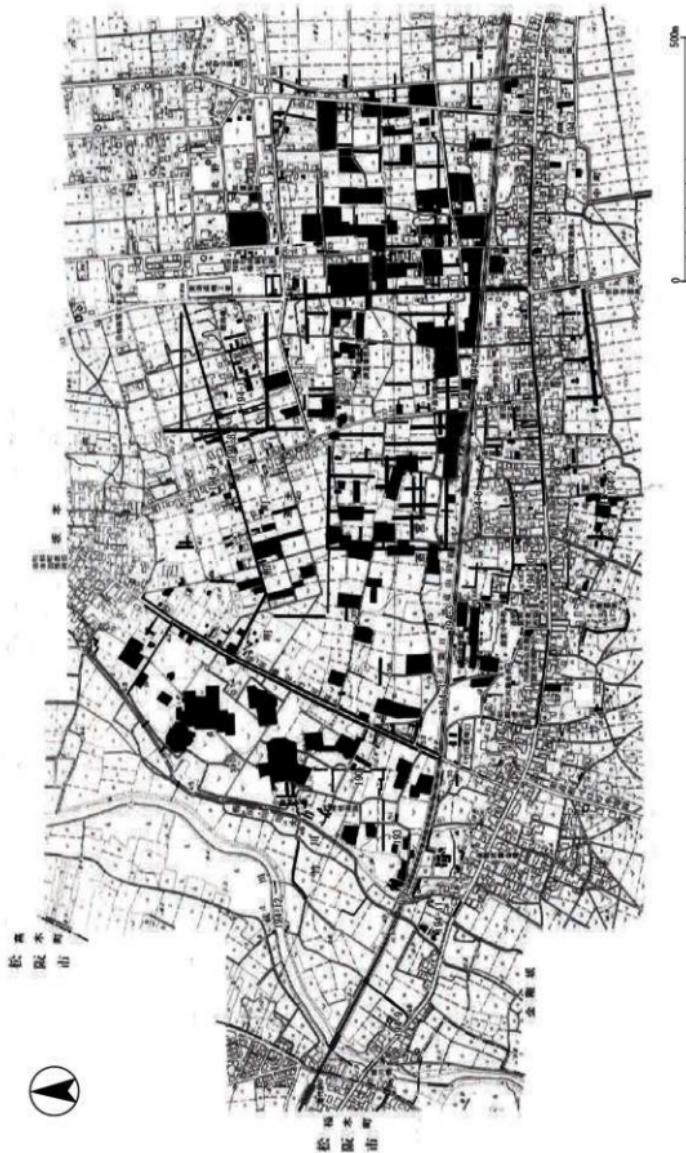
I 前 言

平成30年度には42件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40~50件程度で推移してきており、平成30年度も同様の傾向が窺える。現状変更の内訳をみると、個人住宅の新築やそれに伴う盛土や改築、道路側溝の設置や改修、鉄道の鉄柱補修など、史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡整備（散策路整備・戸戸広場整備）などの歴史的風致維持向上計画（以下、「歴まち整備事業」）に伴う事前の発掘調査等があった。このうち、発掘調査が必要となった案件は12件で、調査面積の合計は766.1m²である。

第194-1・4~8・10・11次は個人住宅の新築あるいはそれに伴う盛土で、建物の基礎工事や浄化槽の埋設などに伴って調査を行なった。また、第194-3次調査は鉄道補修に関連するもので、鉄道用支持物の基礎補強および支線基礎埋設部の調査を行った。一方、第194-2・9・12次は歴まち整備事業に関連し、第194-2次は八脚門広場整備、第194-9次は戸戸散策路整備、第194-12次は戸戸広場整備のうち神宮橋設置に伴う調査であった。中でも、第194-2・9・12次調査は100m²を超える比較的まとまった面積での調査となった。これら調査はいずれも、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果となった。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m ²)	うち補助金調査件数	同調査面積 (m ²)
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
27	53	15	352.5	11	198
28	55	17	751.9	8	532.9
29	38	12	664.8	6	214.9
30	42	12	766.1	8	248.4
計	1,780	468	70,208.1	287	26,713.1

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移



第1図 発掘調査地位置図 (1:10,000)

II 調査報告

1 第194-1次調査 (6AP7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2889-1

原 因 住宅建築

調査期間 平成30年4月26日

調査面積 54m²

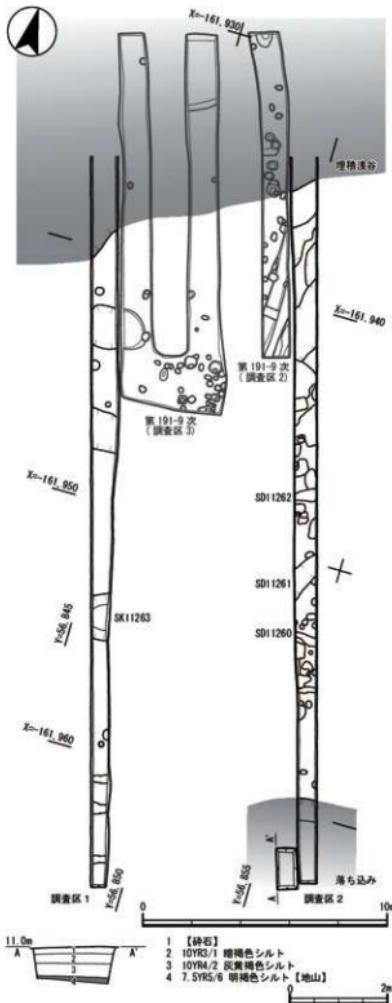
調査概要 調査地は史跡北部に位置する畠地である。住宅建築に伴う発掘調査（第191-9次）は実施済であり、今回は当該住宅を囲うブロック塀の設置に伴うものである。地表面から深さ0.2~0.3mで地山面に至る。建築施工の深度が地山層に抵触する恐れがあったため、幅0.8~1.1m、長さ56.5mのコ字状に掘削したうち、南半部30m間の発掘調査を行った。なお、調査は遺構検出に留めており、対象地北半部は埋積浅谷のため立会い調査に留め、施工可としている。

既往の第191-9次調査では、溝・土坑・ピットが確認されており、今回の調査でも同様の遺構を検出し、延伸部分を追認した溝などを検出した。調査区2のSD11260は古代の溝、SD11261は平安時代後期の溝、調査区1のSK11263は平安時代後期の土坑である。出土遺物は、土師器・須恵器・陶器・土錘があった。

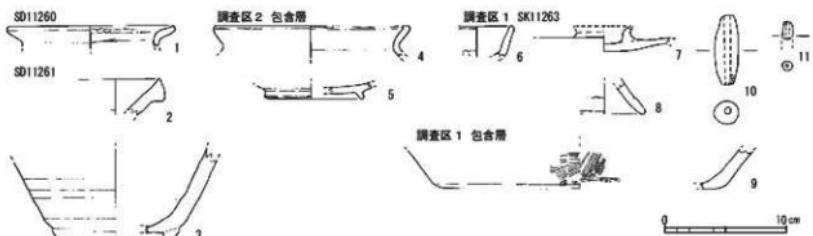
調査区は史跡北辺部に相当するため、斎宮跡関連遺構は顯著にみられない。当該地に埋積浅谷が存在することも追認した。



第2図 第194-1次調査区位置図 (1:2,000)



第3図 第194-1次調査 遺構平面図 (1:200)・
土層図 (1:100)



第4図 第194-1次調査 遺物実測図 (1:4)

2 第194-2次調査 (6AN14)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字木葉山131-2

原 因 発掘調査

調査期間 平成30年6月8日～10月3日

調査面積 228.1m²

調査概要 調査地は伊勢街道沿いに続く住宅地域の南側、史跡南部に位置する畠地である。明和町の歴まち整備事業の一環である公園整備に伴うもので、平成4年度第96-5次で確認した八脚門の南西隅とその東隣の柱及び塀の続きを確認すること、また、南面する東西方向の道路を確認することなどを目的として調査を実施した。

調査の結果、調査地北東部分と南東隅以外で近世の瓦や土器・陶磁器類を含む土層の広がりを確認し、聴き取り等も含め、当該地では瓦製作のための粘土採取が行われていたことがわかった。詳細は以下に記す。

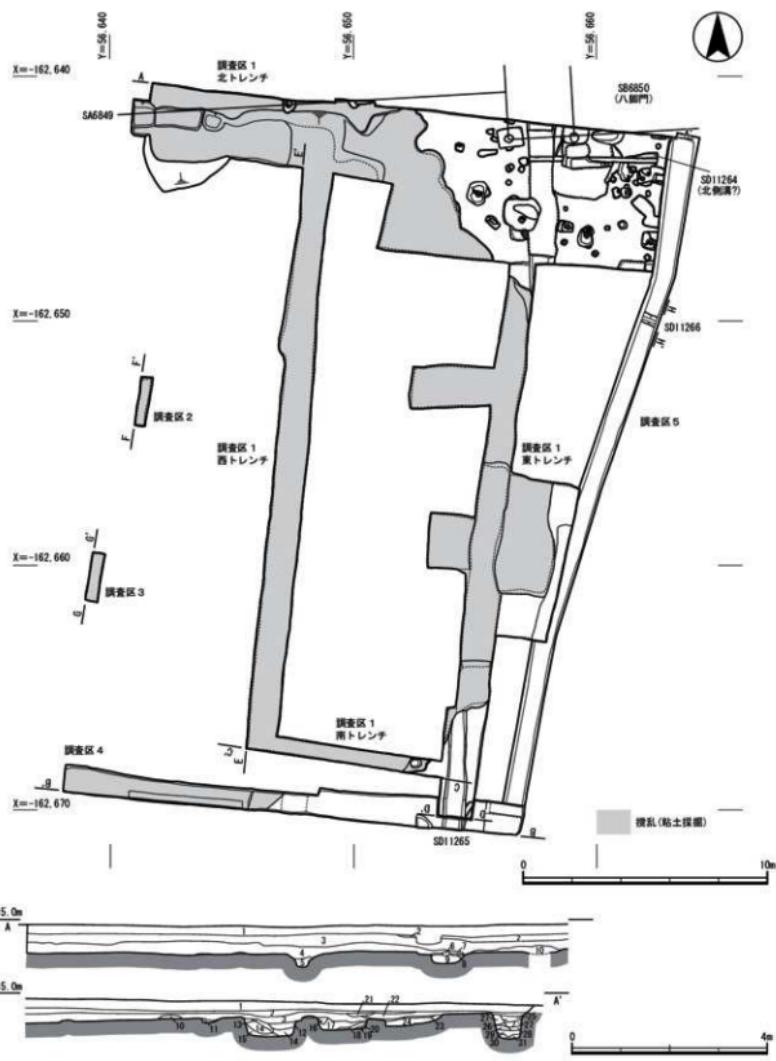
調査区設定と層位の概要 八脚門と塀の検出を想定した北部分は、面的に調査区を設定した。この調査区東端では地表面から0.2mで地山面を確認したが、その東端から3.5m付近から近世の粘土採掘による削平により遺構も底部付近のみしか確認できないようになり、東端から9.0mでは地表面から0.5mで著しく削平された地山面が確認できた。

道路部分については南北方向のトレンチ2本を設定し、側溝を確認した時点で拡張することとした。調査区1西トレンチでは地表面から0.1mで前述の近世の攪乱土層を確認でき、地表面から0.5mを下げても地山面は確認できなかったことから、道路遺構等は残存しないと判断し、そこで掘削を止めている。調査区1東トレンチも同様であるが、南端から1.0mは地山面が残存し、SD11265が見つかったことから、その部分のみ拡張した。調査区1南トレンチでは、東端から1.0mの範囲は地表面から約0.1mで地山面を確認しているが、それより西では近世攪乱土層が広がり、0.4m掘削しても地山面を確認することはできなかった。

また、当申請地西端で想定される東西道路の南側溝が残存する可能性を想定して、道路幅9mと15mの場合を想定して小トレンチを設定し掘削したが、やはり地表面から0.1～0.2mで攪乱土層を確認し、地表面から0.4m掘削しても地山面が見られなかったことから、南側溝が本来存在したとしても削平され、遺存していないと判断した。

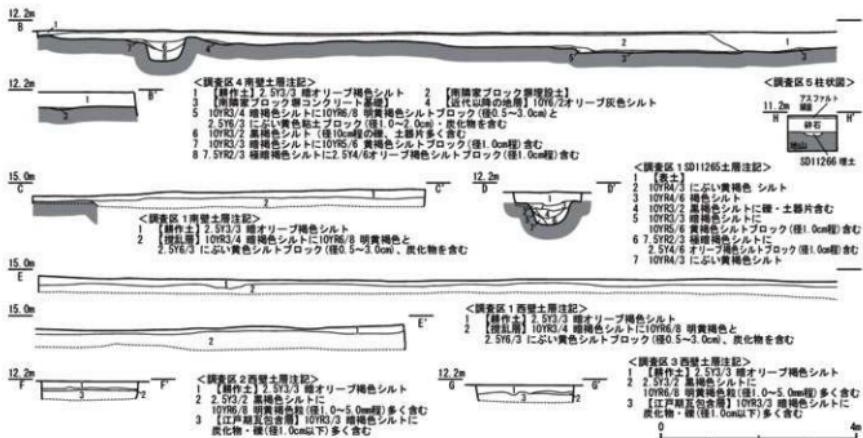


第5図 第194-2次調査区位置図 (1:2,000)

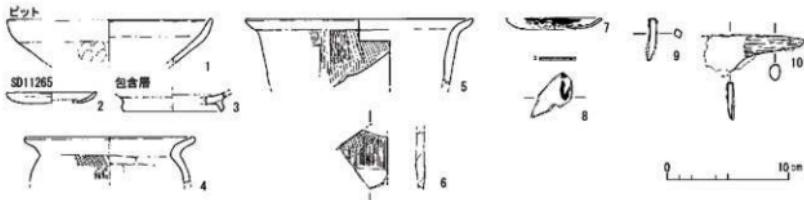


- <調査区 1 北壁土層注記>
- (公開未完成)
1. 黄褐色シルト
 2. 10YR2/4 暗褐色シルトに7.SYRS/8 明褐色シルトブロック (径0.5cm) が多く混じる
 3. 暗褐色シルト
 4. 7.SYRS/3 暗褐色シルト
 5. 5.5YR3/1 オリゾンテ暗褐色シルト
 6. 10YR2/4 暗褐色シルト
 7. 7.SYRS/3 暗褐色シルトに7.SYRS/8 明褐色シルトが多く混じる
 8. 7.SYRS/3 暗褐色シルト
 9. 8.5YR2/6 暗褐色シルトに10YR1.7/1 黒色シルトブロック (径1.0~3.0cm) と
褐色シルトと7.SYRS/8 明褐色シルトブロック (径1.0cm) が多く混じる
 10. 10YR4/2 暗褐色シルトと10YR5/6 黄褐色シルトが混じる
 11. 7.SYRS/2 暗褐色シルト
 12. 10YR2/3 暗褐色シルト
 13. 5.YR3/1 オリゾンテ暗褐色シルトに7.SYRS/8 明褐色シルトブロック (径1.0~5.0cm) 含む
 14. 10YR2/1 暗褐色シルト
 15. 10YR2/3 暗褐色シルト
 16. 10YR2/3 黒色シルト
 17. 10YR2/1 黑色シルト
 18. 2.SYRS/3 黄色シルト
 19. 10YR5/6 黄褐色粘質シルトブロック (径1.0~2.0cm) 含む
 20. 2.5YR2/3 暗オーロラシルト
 21. SYRS/3 暗褐色シルト
 22. 10YR2/3 黑色シルト
 23. 2.5YR4/3 黄色シルト (瓦む)
 24. 10YR2/3 黑色シルト
 25. 10YR2/3 黑色シルト
 26. 2.5YR2/3 黑色シルト
 27. 10YR2/3 黑色シルト
 28. 10YR7/1 黑色シルト
 29. 10YR2/2 黑褐色シルトに10YR5/6 黄褐色シルトブロック (径1.0cm) 含む
 30. 2.5YR2/3 黄褐色シルトに10YR5/6 黄褐色粘質粒が散在する
 31. 7.SYRS/2 黑褐色シルトに5.SYRS/8 明褐色シルトがマーブル状に入る

第6図 第194-2次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)



第7図 第194-2次調査 土層図 (1:100)



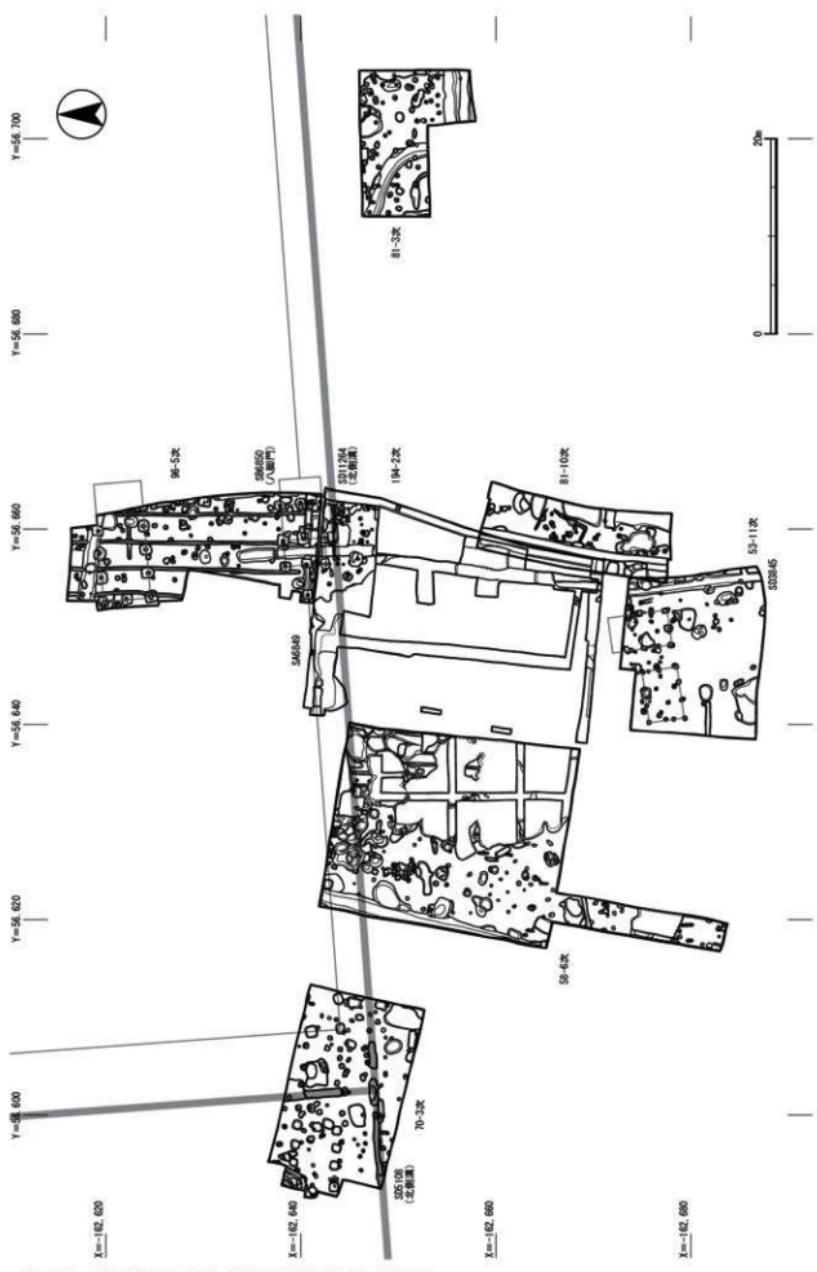
第8図 第194-2次調査 遺物実測図 (1:4)

加えて、調査区1 東トレーンチ南端で確認したSD11265と、想定される東西道路の南側溝との交差点を確認するため、調査区1 東トレーンチの2箇所を拡張区としたが、搅乱土層の広がりによって遺構は遺存しないものと判断した。遺構については以下に詳述する。

八脚門SB6850 北側の第96-5次調査で、方格街区（方格地割）の南西隅の区画「木葉山西区画」の南辺に取りつく正門「八脚門」が確認されていたが、今回、その南西隅の柱2本を検出した。柱洞方は $1.0\text{m} \times 0.7\text{m}$ の長方形を呈し、柱穴の深さは確認していないが、第96-5次調査では調査面から0.8mと判明している。柱痕跡は直径約0.3mであり、第96-5次調査と同規模であることが確認できた。

堀SA6849 前述の第96-5次調査において八脚門から西へ延びる柱列の一部と、昭和62年度第70-3次調査において堀の区画南西隅を調査している。今回、第96-5次調査区から続く堀の掘方及び柱痕跡を2箇所で確認したが、それより西の延長部分は近世の搅乱により削平されていた。今回確認した柱間距離は、東から約2.7m (9尺)、3m (10尺) と等間隔ではなかったが、およそ1尺=30cmで設計されているようである。

道路跡 第70-3次調査において、区画堀の南を東西方向に走る区画道路のSD5108（北側溝）を確認したが、その深さは6~7cmで、今回の調査区東端で検出した長方形の浅い土坑状遺構（SD11264）がその延長に当たるかもしれない。それ以外の箇所では削平もあり確認できなかった。また、南側溝はこれまでの調査でも確認されていない。



第9図 八脚門（S86850）周辺の遺構配置図（1:500）

その他 SD11265は幅0.7~0.9m、深さ約30cmの断面逆台形を呈し、調査区1内では約4mを確認しているが、北側は近世の攪乱を受けている。溝の方向は八脚門の中心線の方向と合致することから、東西道路との交差点部分を確認するために、東西道路が9m幅の場合、15m幅の場合で一部を拡張したが、攪乱のため確認できなかった。溝底部から出土した土師器小皿は鎌倉時代の所産であることから、埋没した時期が鎌倉時代とも言え、掘削年代については周囲の状況も含めて今後の検討が必要である。昭和59年度第53~11次調査で検出したSD3845の延長とも考えられるが、軸方向がややずれる。

出土遺物 八脚門柱掘方や南北方向の溝からわずかに土師器破片、皿などが出土したのみで、大半は近世攪乱から出土した土器・陶磁器・瓦類である。

3 第194-3次調査 (6A111・K11・T12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏334-5、334-8、字東裏287-4、大字斎宮字鍛冶山2740-7

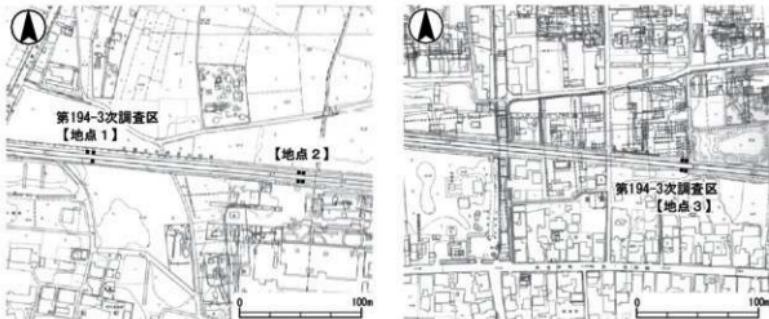
原因 鉄柱補修

調査期間 平成30年6月12・13・18・20・26・27日

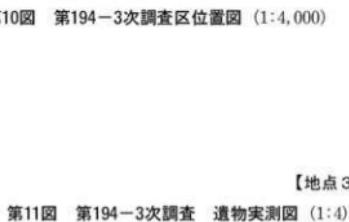
調査面積 17.3m²

調査概要 調査地は史跡西部及び東部の線路敷地で、鉄柱補修に伴う発掘調査である。調査区は線路敷地内で史跡の東部2地点（地点1・2）、西部1地点（地点3）である。地点1・2はいずれも削平され、地点2では黄褐色粘質シルトの地山が確認できたものの、地点1では腐食土下は地山の段丘礫を確認した。地点1・2はいずれも遺構は確認できなかった。

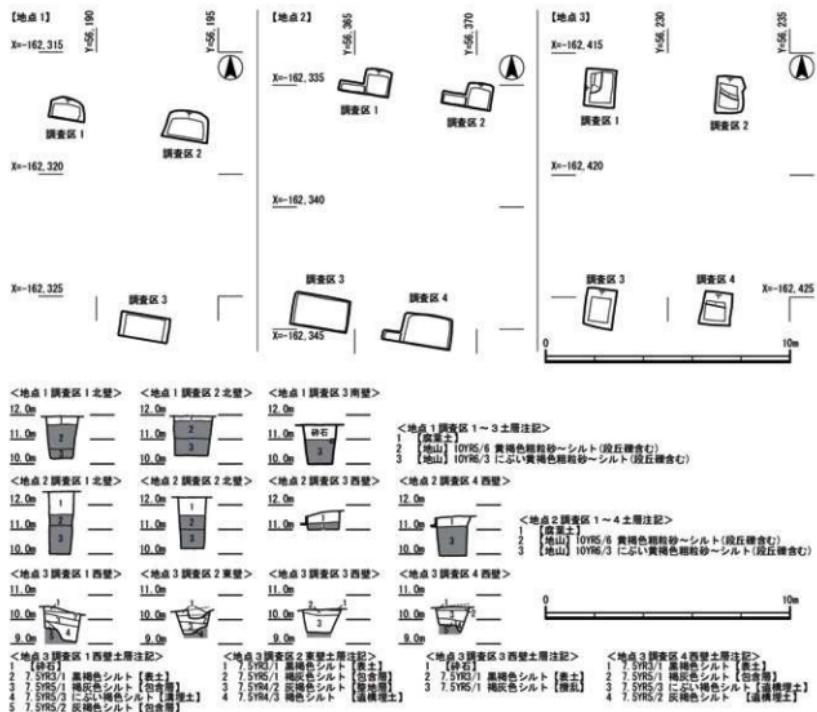
地点3は、方格街区（方格地割）の鍛冶山西区画内に位置する。地表面から深さ0.7~0.9mで地山面に至る。調査区1では南北0.85m以上×東西0.45m以上の土坑状遺構が、調査区2では南北0.55m以上×東西0.7m以上の土坑状遺構が、調査区4では幅0.2m以上、長さ0.8m以上の東西方向と思われる溝を確認した。出土遺物は、いずれも地点3から土師器、須恵器があった。



第10図 第194-3次調査区位置図 (1:4,000)



第11図 第194-3次調査 遺物実測図 (1:4)



第12図 第194-3次調査 遺構平面図・土層図 (1:200)

4 第194-4次調査 (6AN6)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字篠林3147番2ほか

原 因 住宅建築

調査期間 平成30年6月28日～7月27日

調査面積 55.4m²

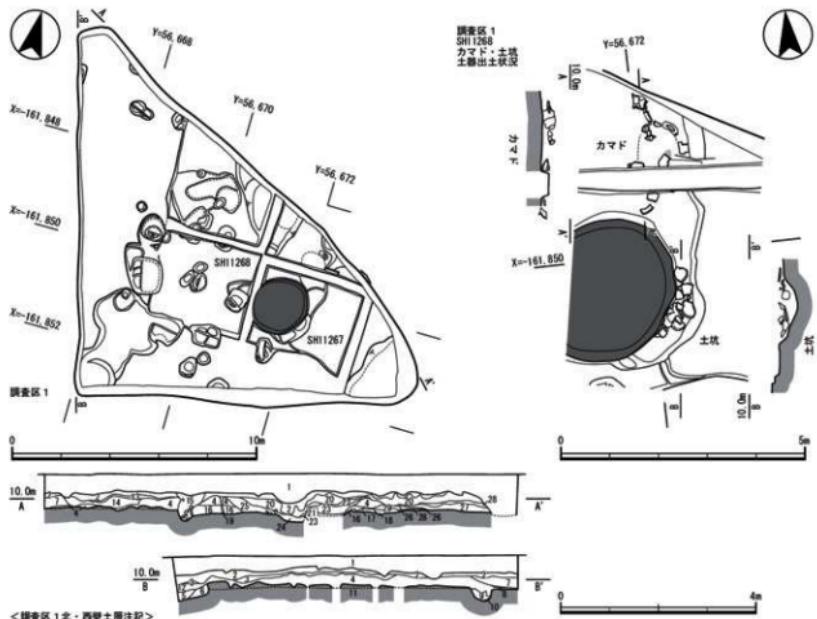
調査概要 住宅建築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡北部に位置する宅地である。

調査区は、北地区と南地区の2区を設定した。北地区は、西辺7.5m、南辺6.5mの三角形の調査区で、地表面から深さ0.5～0.6mで地山面に至る。重複した堅穴建物2棟、ピットを確認できた。東側のSH11267では、西辺にカマド状の焼土の広がりと、

その南側に調査前の建築物に付随する井戸で破壊されていたが、直径0.15mほどの円窓と土器がまとまって出土する土坑が確認できた。奈良時代前期に属する。南地区は、幅1～1.8m、長さ13.7mの長

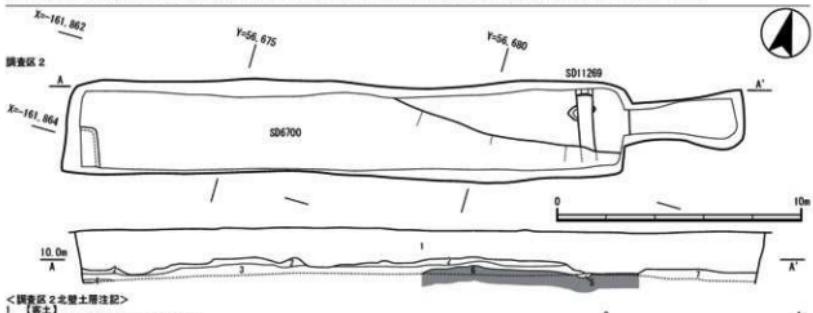


第13図 第194-4次調査区位置図 (1:2,000)



<調査区1北・西壁土層注記>

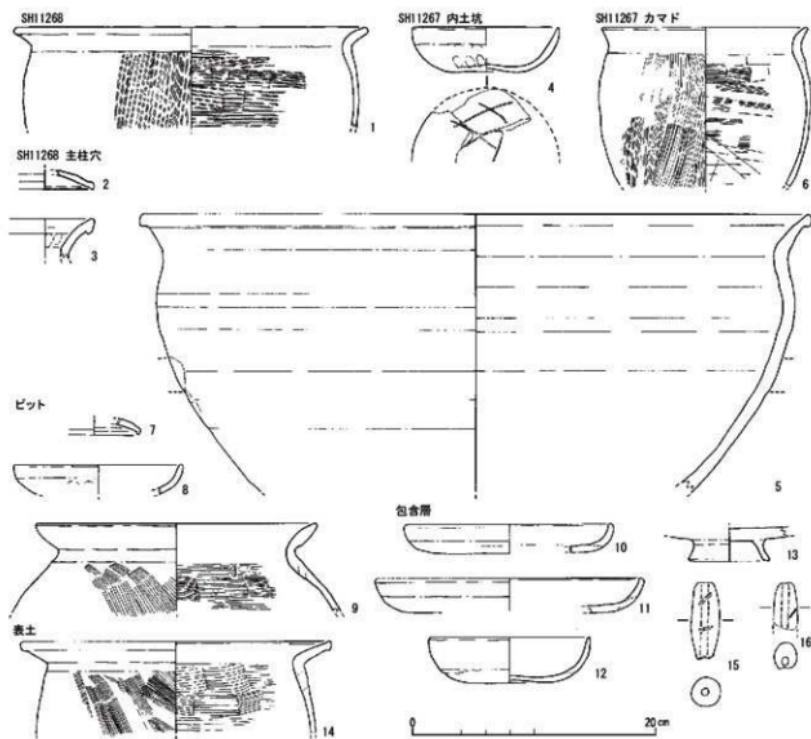
1. TYS3/4 暗褐色シルト
2. SY3/3 白オリーブ褐色シルト
3. SY3/1 黒褐色粘質シルト
4. SY3/1 黑褐色粘質シルト【堆積土】
5. SY3/1 黑褐色粘質シルト【堆積土】
6. SY3/1 黑褐色粘質シルト-2, SY6/5 明黄褐色シルトが混じる【堆積土】
7. SY3/2 オリーブ黒褐色シルト【堆積土】
8. 2. SY4/4 黑褐色シルト-2, SY7/6 明黄褐色シルトブロックを多く含む
9. 2. SY4/4 黑褐色シルト-2, SY7/6 明黄褐色シルトブロックを多く含む
10. SY4/6 オリーブ褐色シルト【地山】
11. SY4/6 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック【堆積土】
12. SY4/6 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック【堆積土】
13. SY4/6 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック【堆積土】
14. 10YR2/3 黑褐色シルト-2, SY5/6 黄褐色シルトブロック【堆積土】
15. 10YR2/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトと2, SY6/6 黄褐色シルト粒が層状に堆積(厚5.0cm程の層を多く含む)【堆積土】
16. 2. SY4/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 黄褐色シルト粒(厚5.0cm)多く含む【SH1268地山】
17. 2. SY4/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 黄褐色シルト粒(厚5.0cm)多く含む【SH1268地山】
18. 10YR2/3 黑褐色シルト【SH1268地山】
19. 10YR4/4 黄褐色粘質砂【堆積土】
20. 10YR4/4 黄褐色粘質砂【堆積土】
21. 10YR4/4 黄褐色シルト【堆積土】
22. 2. SY4/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚0.5~1.0cm)を含む【堆積土】
23. 10YR2/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚0.5~1.0cm)とSY6/6 明黄褐色粘土塊を多く含む【堆積土】
24. 10YR2/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚0.5~1.0cm)を含む【堆積土】
25. 10YR2/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚0.5~1.0cm)を含む【堆積土】
26. 填土
27. 10YR3/3 黑褐色シルト【SH1268地山】
28. 10YR3/3 黑褐色シルト-2, SY5/6 黄褐色シルト粒(厚5.0cm)を多く含む【SH1268地山】
29. 2. SY4/3 オリーブ褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚1.0cm)多く含み、填土粒をわずかに含む【SH1268カマド堆積土が燃れたものか】



<調査区2北壁土層注記>

1. SY4/3 黑褐色シルト【S06700地山】
2. SY4/3 オリーブ褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚2.0cm)を多く含む【S06700地山】
3. SY4/3 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚1.0cm)を含む【S06700地山】
4. SYR2/4 黑褐色シルト-2, SY5/6 明黄褐色シルトブロック(厚1.0cm)を含む【S06700地山】
5. 10YR2/3 黑褐色シルト-2, SY5/6 に似た明黄褐色シルトブロック(厚1.0cm)を含む【S011269地山】
6. 2. SY5/5 黄褐色シルト【地山】
7. 填土(厚3~10cm)【堆積土】

第14図 第194-4次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)



第15図 第194-4次調査 遺物実測図 (1:4)

方形の調査区で、地表面から0.4~0.5mで地山面に至る。溝2条とビットを確認したが、このうち東西方向の溝はいわゆる「鎌倉大溝」とされるSD6700の一部とみられる。出土遺物は、土師器・須恵器・土錐などがある。

5 第194-5次調査 (6A112)

調査場所 多気郡明和町大字竹川353

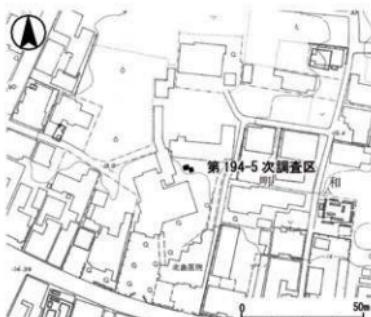
原 因 処理槽埋設

調査期間 平成30年7月24・25日

調査面積 5.1m²

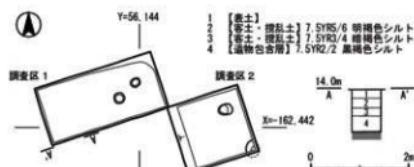
調査概要 処理槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南部に位置する宅地である。

調査区は、長さ2.5m、幅1.2mの長方形を呈する調査区1、長さ1.5m、幅1.4mのほぼ正方形を呈する調査区2の調査区の角を接する2箇所で、いずれ



第16図 第194-5次調査区位置図 (1:2,000)

も地表面から深さ約0.8mで地山面に至る。調査の結果、ピットを確認したものの、出土遺物はなく、帰属する時期は不明である。



第17図 第194-5次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

6 第194-6次調査(6AN11)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字内山3064-1

原 因 浄化槽埋設

調査期間 平成30年7月27日

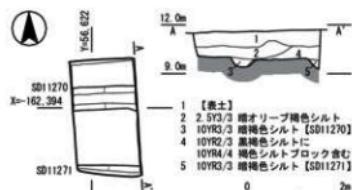
調査面積 3.0m²

調査概要 浄化槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南部に位置する宅地である。

調査区は、長さ2.3m、幅1.3mで、地表面から深さ0.5mで地山面に至る。調査の結果、並行する東西方向の溝2条確認した。SD11270は幅0.45m、地山面からの深さ0.14~0.18mである。SD11271は溝の北肩を検出したのみで、幅は0.15m以上、検出面からの深さは0.18m以上である。出土遺物は、SD11271から出土した土師器片がある。



第18図 第194-6次調査区位置図(1:2,000)



第19図 第194-6次調査 遺構平面図・土層図(1:200)

7 第194-7次調査(6AU・V13)

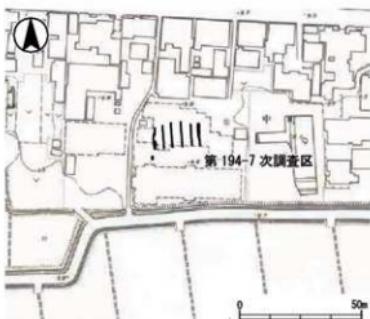
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字笛川1050-1ほか

原 因 住宅建築

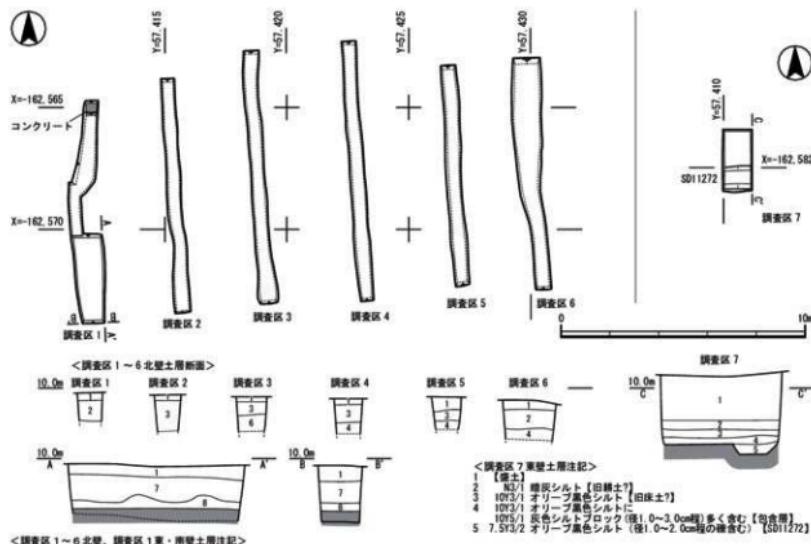
調査期間 平成30年10月1日~10月2日、12月28日

調査面積 34.2m²

調査概要 住宅建築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南東部に位置する宅地である。調査地は、過去に牛舎が建てられて、地下に污水タンクが埋設されていたこともあり、地下構造は大きく失われていることが予想された。調査区は、南北主軸で溝状に6本、調査区1の南に1箇所を設定した。



第20図 第194-7次調査区位置図(1:2,000)



第21図 第194-7次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

調査区1は、北側が幅0.5m、長さ5.5m、南側が幅0.8～1.0m、長さ3.4m、調査区2は幅0.4m、長さ9.6m、調査区3は幅0.4～0.5m、長さ10.4m、調査区4は幅0.4m、長さ10.8m、調査区5は幅0.4m、長さ9.2m、調査区6は幅0.4～1.0m、長さ9.6mで、調査区1の南側を除き、いずれも地表面から約0.8mの深さまで掘削したものの、コンクリートブロックやビニール袋が混入するなど、著しく攪乱されていた。周囲の過去の調査では地山面まで0.6～0.7mということもあり、遺構は失われている可能性が高く、地山面までの深度もわからぬため、地山面までの掘削は行わなかつた。

調査区1の南側では、地表面から約0.65mで包含層に類した黒褐色シルトがみられ、約0.95mでは地山面も確認した。ただし、遺構は確認できなかった。調査区7は地表面から約1.5mの深さで地山面を確認し、幅約1m・深さ約0.2mの東西方向の溝を検出した。

遺物は古代と思われる土器片が包含層より出土した。その他、各調査区の攪乱土中より山茶碗の細片や近現代の陶磁器、瓦などが出土した。



第22図 第194-7次調査 遺物実測図 (1:4)

8 第194-8次調査 (6A06)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2883-2

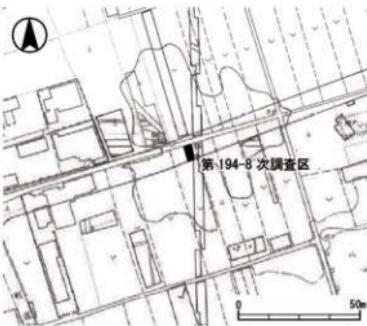
原 因 住宅建築

調査期間 平成30年10月1日～10月10日

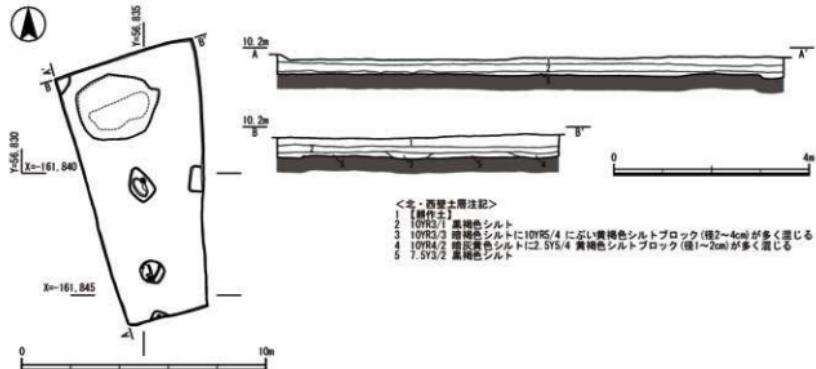
調査面積 48.5m²

調査概要 住宅建築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡北部に位置する畠地である。

調査区は、北辺5.9m、南辺3.4m、長さ10.6mの台形で、申請地内には昭和48年度第6-1次調査区があることから、その調査区と一部重複させるように調査区を設定した。地表面から深さ0.3～0.4mで地山面に至る。調査の結果、風倒木痕と人為的なものではない窪みを確認した。調査地の北側では鎌倉大溝が走っており、第6-1次調査の成果とあわせてみても、遺構密度が薄い地点といえる。出土遺物は土師器細片がある。



第23図 第194-8次調査区位置図 (1:2,000)



第24図 第194-8次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

9 第194-9次調査 (6AC・D10)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字花園、字萩戸地内

原 因 散策路整備

調査期間 平成30年10月10日～10月25日

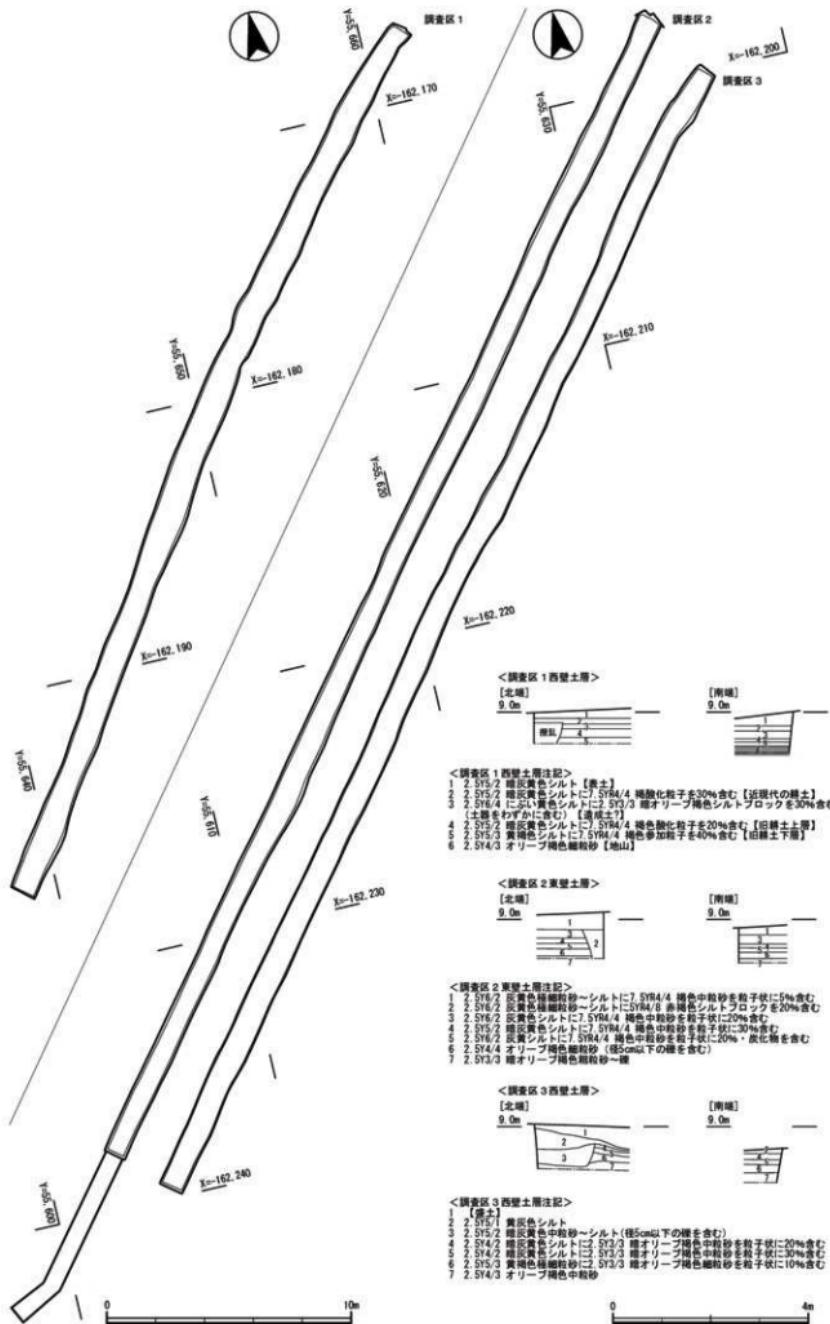
調査面積 158.1m²

調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環である散策路整備に伴い、畦畔ブロック及びL型擁壁を設置するため実施した発掘調査である。調査地は史跡西部に位置する水田である。調査区は、調査区1～3の3箇所を設定した。

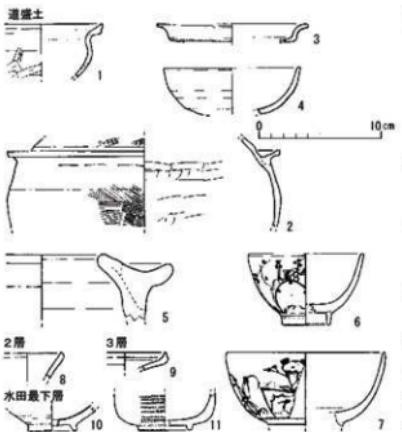
調査区1は、幅1.0～1.4m×延長39.0mで、地表



第25図 第194-9次調査区位置図 (1:2,000)



第26図 第194-9次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)



第27図 第194-9次調査 遺物実測図 (1:4)



第28図 第194-10次調査区位置図 (1:2,000)

面から約0.6mで地山面となる。

調査区2は、幅1.0m×延長50.9mで、地表面から0.6~0.8m掘り下げたが、中粒砂と細粒砂の互層となり安定しない。

調査区3は、幅1.0m×延長67.0mで地表面から0.8~1.0m掘り下げたが、調査区2と同様、中粒砂と細粒砂の互層となり安定しない。遺構は確認できなかったが、土師器、陶磁器類が出土した。

10 第191-10次調査 (6AL12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉3399番1ほか
原 因 住宅建築

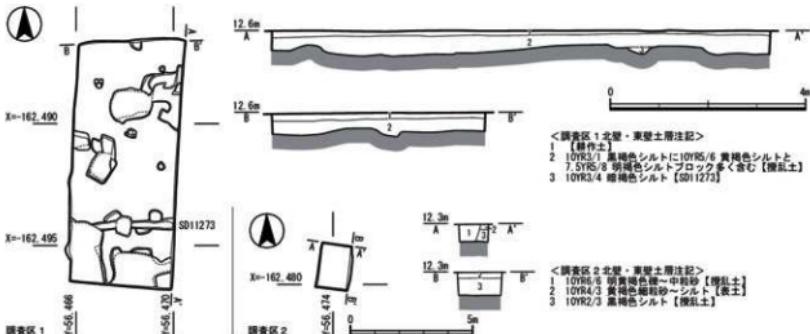
調査期間 平成30年10月30日~11月14日・29日

調査面積 41.4m²

調査概要 住宅建築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡中央南部に位置する畠地である。

調査区は、東西4.4m、南北10.1mの長方形を呈する。地山面は、地表面から北端で約0.4m、南端で約0.5mの深さで確認できるが、地表下約0.1mから地山面直上まで擾乱土が見られ、今回確認した地山面の全体に重機のキャタピラ痕が見られることなどから、調査区全体が擾乱を受け、本来の地山面は大きく削平されていると思われる。

調査の結果、遺構は調査区南で検出した鎌倉時代の所産と考えられる東西方向の溝や調査区北西部で検出した近世の土坑、ピットがあるのみであった。出土遺物は平安時代と思われる土師器甕片、鎌倉時代の土師器鍋片、近世の土師器・陶器片などがある。



第29図 第194-10次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

11 第194-11次調査 (6AP6)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字花園659-7

原 因 住宅建築

調査期間 平成30年12月7日

調査面積 6.8m²

調査概要 住宅建築に伴い事前に実施した発掘調査である。調査地は史跡南西部に位置する標高約11mの雑種地で、標高約10mの水田上に盛土がなされている。調査区は、南北1.5m、東西4.5m、掘削深度約3mの長方形を呈する。段丘下の低地であり、地山面が深いことが想定されたことから、安全が確保される深さまで掘削し、堆積状況を確認し、何らかの生活面あるいは遺物の出土が確認できた場合、可能な限り拡張することとした。

調査地は地表面から深さ1.3mまで造成による盛土が確認でき、そこから約1.7mまで掘り下げたが、盛土直下の若干細砂が混じるシルト層で鎌倉時代の所産と思われる陶器碗（山茶碗）破片が出土した程度で、その下のシルト層から掘削した底部まで遺物の出土はなく、安定した面は確認できなかった。このことから、調査地点は河川流路の、さほど流れのない濁んだ状況を示しているものと考えられる。なお、今回の調査区底部は古く見ても中世の堆積であり、古代の地層は更に下層にあると思われる。出土遺物には土師器細片と陶器碗片がある。

12 第194-12次調査 (6AE7)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字祓戸地内、字祓戸700、702、719、720

原 因 史跡整備

調査期間 平成31年3月5・7日

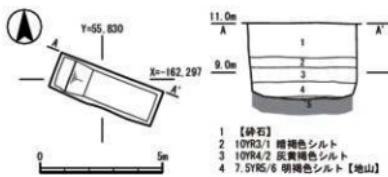
調査面積 114.2m²

調査概要 調査地は史跡西端を流れる祓川の両岸である。明和町による「歴史的風致維持向上計画」にかかる事業（歴まち整備事業）の一環として行う史跡公園祓戸広場（神宮橋）整備の現状変更に伴い、調査を実施した。

調査地点は神宮橋の橋脚部分であり、現河川岸に当たることから、鋼矢板を打設し、排水ポンプを設置して調査環境を整えたうえで調査に着手した。調査区は両岸それぞれ1箇所、計2箇所を設置し、いずれも東西6.8m×南北8.4mである。常に水の流入があり、後述するように砂層の堆積であることから、安全面から掘削は地表面から3.2mの深さで留めた。



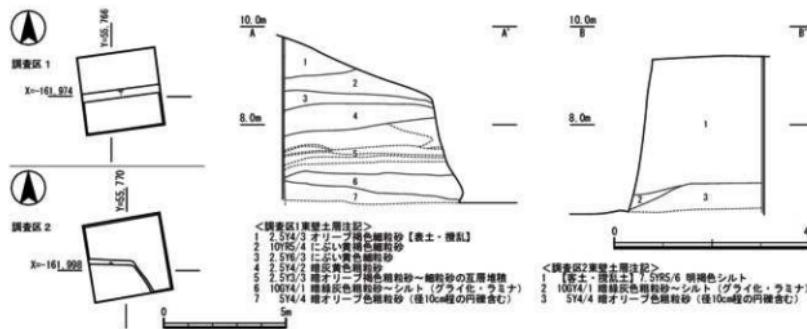
第30図 第194-11次調査区位置図 (1:2,000)



第31図 第194-11次調査 遺構平面図・土層図 (1:200)



第32図 第194-12次調査区位置図 (1:2,000)



第33図 第194-12次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

蔽川左岸側である調査区1は、調査区の南部分、現河川側約3mは、旧神宮橋の橋脚基礎や旧護岸等で大きく擾乱を受けていた。残存する北部分は東西方向の土層確認により、明確な遺構面が確認できないことから、南北方向に断ち割り、土層の記録を取った。底部から、径0.1m前後の円礫を含む極粗砂層の上に粗粒砂がわずかに含むシルト層が見られ、その上に円礫を含む極粗砂層、中粒砂と粗粒砂の互層が約1mの厚さを持って堆積していた。そしてその上から約1mは現蔽川の位置を流れている河川による極細粒砂～シルト層が堆積していた。

蔽川右岸側の調査区2は調査区1と同様、調査区の西部分、現河川側約3mは、旧神宮橋の橋脚基礎や旧護岸等で大きく擾乱を受けていた。東部分についても排水管が埋設されており、地表面から深さ3.1mまで大きく擾乱を受けていた。その下にわずかに径0.1m前後の円礫を含む極粗砂層が確認でき、旧河川の一部と考えられる。出土遺物はなく、今回確認した堆積層の時期は不明である。

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
194-1	SD 11260	溝 1	奈良時代	土師器	
	SD 11261	溝 2	奈良時代	須恵器	
	SD 11262	溝 3	不明	転用甕?	
	SK 11263	土坑 1	奈良時代前期	土師器	
194-2	SA 6849	無	奈良時代	なし	柱立柱解
	SB 6850	八脚門	奈良時代	なし	八脚門
	SD 11264	不明遺構 2	奈良時代か	なし	北側溝か
	SD 11265	溝 6	平安時代末~	土師器	
	SD 11266	溝	不明	なし	
194-4	SH 11267	堅穴 2	奈良時代前期	土師器・須恵器	カマド・土坑あり
	SH 11268	堅穴 1	奈良時代前期	土師器・須恵器	主柱穴あり
	SD 11269	溝	縄文時代以降	なし	
	SD 6700	溝 3	縄文時代	土師器・須恵器・陶器	「縄文大溝」
194-6	SD 11270	溝 2	不明	なし	
194-7	SD 11271	溝 1	不明	土師器	
194-10	SD 11273	溝 1	平安時代?	陶器	
194-10	SD 11273	溝 1	縄文時代	土師器	

第2表 第194次調査遺構一覧表

第194-1次調査

番号	器種	表面	出土遺構	調査時 遺構名	法量(m) 底面積 底さ(g)	調査・抜法の特徴	新 増 成	色調	保存度	登録番号	備考
1	土師器	裏	SD 11260	堅穴 1 (壁付) 楊葉 底付	13.5 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 に 赤	10/98/3 1/12	001-01	
2	須恵器	裏	SD 11261	堅穴 2 底付	2.9 外底: リヨン模様	外底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/1 1/12木漆	001-03	3と同一個体か。
3	埴鹿器	蓋	SD 11261	堅穴 2 底付	9.3 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: 黒付高台コチナ。ロクロケツリ	直 底付	灰 白 黒	10/98/3 1/12木漆	001-02	焼き割れあり 2と同一個体か。
4	土師器	裏	SD 11261	堅穴 2 底付	17.0 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/4 1/12木漆	001-08	
5	灰陶陶器	裏	SD 11261	堅穴 2 底付	12.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: 黒付高台	直 底付	灰 白 黒	10/98/4 1/12木漆	002-01	
6	土師器	裏	SD 11263	堅穴 1 底付	1.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	001-05	
7	土師器	杯	SD 11263	堅穴 1 底付	1.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	002-01	
8	土師器	蓋	SD 11263	堅穴 1 底付	1.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	001-06	つまみ部に「×」識別記
9	土師器	蓋	SD 11263	堅穴 1 底付	2.0 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	001-07	内面に墨跡あり
10	土製品	土蜂	SD 11263	堅穴 1 底付	5.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	002-02	
11	土製品	土蜂	SD 11263	堅穴 1 底付	5.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	002-03	
12	土製品	土蜂	SD 11263	堅穴 1 底付	5.6 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12木漆	002-04	

第194-2次調査

番号	器種	表面	出土遺構	調査時 遺構名	法量(m) 底面積 底さ(g)	調査・抜法の特徴	新 増 成	色調	保存度	登録番号	備考
1	土師器	鉢	SD 11265	堅穴 1 底付	16.0 外底: リヨン模様 底付	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/2 1/12	001-05	
2	土師器	小皿	SD 11265	堅穴 1 底付	7.0 外底: リヨン模様 底付	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/3 1/12	001-02	織目多板
3	灰陶陶器	瓶か 瓶	SD 11265	堅穴 1 底付	7.0 外底: リヨン模様 底付	外底: リヨン模様 底付: 黒付高台	直 底付	灰 白 黒	10/98/1 1/12	001-04	
4	土師器	壺	SD 11265	堅穴 1 底付	7.7 外底: リヨン模様 底付	外底: ハケナメ 内底: リヨン模様 底付	直 底付	灰 白 黒	10/98/2 1/12木漆	001-01	
5	土師器	壺	SD 11265	堅穴 1 底付	7.7 外底: リヨン模様 底付	外底: ハケナメ 内底: リヨン模様 底付	直 底付	灰 白 黒	10/98/2 1/12	001-03	長方形と三角形の孔あり
6	土師器	瓶か 瓶	SD 11265	堅穴 1 底付	10.0 外底: リヨン模様 底付	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/7 1/12	001-10	5と同一個体 底に長い織片か
7	土師器	小皿	SD 11265	堅穴 1 底付	10.0 外底: リヨン模様 底付	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/6 1/12	001-06	縦縫目外面上に油焼付
8	土師器	壺	SD 11265	堅穴 1 底付	— 外底: リヨン模様 底付	— 外底: リヨン模様 底付	直 底付	灰 白 黒	—	001-07	裏面あり
9	鉢製品	鉢	SD 11265	堅穴 1 底付	2.0 外底: リヨン模様 底付	— 外底: リヨン模様 底付	— 外底: リヨン模様 底付	— —	—	001-08	
10	鉢製品	刀子	SD 11265	堅穴 1 底付	8.2 外底: リヨン模様 底付	— 外底: リヨン模様 底付	— 外底: リヨン模様 底付	— —	—	001-09	物の質感保存

第194-3次調査

番号	器種	表面	出土遺構	調査時 遺構名	法量(m) 底面積 底さ(g)	調査・抜法の特徴	新 増 成	色調	保存度	登録番号	備考
1	土師器	杯	土师	T1 土坑	2.4 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/8 1/12木漆	001-01	
2	土師器	杯	土师	T2 土坑	12.0 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/7 1/12	001-02	
3	土師器	杯	包合層	T25(今層) (壁付)	11.6 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/7 1/12	001-03	
4	土師器	杯	包合層	T25(今層) (壁付)	7.6 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/7 1/12	001-04	
5	土師器	杯	包合層	T25(今層) (壁付)	14.0 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/7 1/12	001-05	
6	土師器	包合層	土坑	10.6 土坑	7.6 外底: リヨン模様 内底: リヨン模様	外底: オリザナデ 内底: リヨン模様	直 底付	灰 白 黒	10/98/7 1/12	001-06	

第3表 第194次調査 出土遺物一覧表(1)

第194-4次調査

番号	器種	形態	出土遺物	調査時 遺物名	重量(g) 重さ(g)	測定・技法の特徴	加工成 立成	色調	保存度	登録番号	備考
1	土師器	鍋	SHII268	■13 底盤 支脚 火照	26.4	外面：タマハラ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ヨコハケ	直 良	にぶい黄褐色	1/4	001-01	外面に縦付着
2	土師器	杯	SHII269 上桂宮	■12 支脚 火照	1.5	外面：ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	褐色	1/2	003-04	
3	須恵器	甕	SHII270 主柱穴	■12 支脚 火照跡	3.2	外面：ヨコナダ 内面：オサム、ヨコナダ	直 良	灰白色	1/2	003-05	
4	土師器	杯	SHII271 内土坑	■13 腹穴内 土坑No.3	11.6	外面：オサム・ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	浅黄色	3/2	001-02	底部外面に縦付着
5	須恵器	甕	SHII272 内土坑	■13 腹穴内 土坑No.4	10.6	外面：格子タキシテ後ケズり、把手、ヨコケズ リ、ヨコロケズリ、ヨコハケズリ、ヨコナダ 内面：ヨコハケズリ、ヨコケズリ、把手斜オサ ム、ヨコナダ、ナゲ	直 良	灰7.05V/1	2/2 3/2	002-01	
6	土師器	甕	SHII273 笠原内 カマツ	■13 腹穴内 カマツ No.4 No.5	16.5	外面：タマハラ、ヨコナダ 内面：ヨコハラ、ヘラケズリ、ヨコナダ	直 良	にぶい黄褐色	1/4	001-03	外面に縦付着
7	須恵器	杯	SHII274	■12 支脚	1.3	外面：ヨコケズリ、ヨコロケズリ 内面：ヨコロケズリ	直 良	灰235/1	1/2	003-01	
8	土師器	皿	SHII275	■13 支脚	12.3	外面：ヨコナダ、ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ	直 良	灰7.03V/6	1/2	003-03	
9	土師器	甕	SHII276	■13 腹穴内 火照	7.2	外面：ハラ、ヨコナダ 内面：ヨコハラ、ヨコナダ	直 良	浅黄色	1/2	003-02	
10	土師器	皿	SHII277	■13 腹穴内 火照	16.6	外面：ハラタケズリ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	灰7.03V/4	1/2	003-06	
11	土師器	皿	SHII278	■13 腹穴内 火照	21.6	外面：ハラタケズリ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	灰597.6	1/2	004-01	
12	土師器	杯	SHII279	■13 腹穴内 火照	2.1	外面：オサム・ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	浅黄色	3/2	004-02	外面上に縦付着
13	須恵器	杯	SHII280	■13 火照	5.5	外面：ヨコロケズリ、貼付高台 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	灰257.4	1/2	003-07	
14	土師器	新輪盤	表土	北地区 表土	6.2	外面：オサム・ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコハラ、ヨコナダ	直 良	にぶい灰7.03V/4	1/2	004-03	外面に縦付着
15	土製品	土罐	表土	北地区 表土	32.63 6.50	外面：オサム・ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコハラ、ヨコナダ	直 良	浅黄色	3/2	004-04	当たり瓶あり
16	土製品	土罐	表土	北地区 表土	3.8 2.0 1.6 14.64 6.65	外面：ハラ、ヨコナダ 内面：ヨコハラ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ 内面：ヨコナダ	直 良	にぶい黄褐色	1/2	004-05	当たり瓶あり

第194-7次調査

番号	器種	形態	出土遺物	調査時 遺物名	重量(g) 重さ(g)	測定・技法の特徴	加工成 立成	色調	保存度	登録番号	備考
1	土師器	小皿	櫻花	■14+7 カクラン	5.0	測定口付 底盤	直 良	浅灰3.57/3	1/4	001-03	
2	土師器	小皿	櫻花	■14+7 カクラン	9.7	外面：オサム・ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	灰白5.58/2	1/2	001-02	
3	土師器	小皿	櫻花	■14+7 カクラン	1.3	測定口付 底盤	直 良	灰白5.58/2	1/2	001-01	
4	土師器	杯	櫻花	■14+7 カクラン	2.2	外面：オサム・ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	灰白5.08/2	1/2	001-04	
5	陶器	碗	櫻花	底盤 火照 孔絞	5.2 2.0 1.6 14.64 6.65	外面：火切削、縁挫、貼付高台、ヨコケズ リ、ヨコロケズリ、火照、縁挫 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	輪：乳白色 底盤：灰E22.57BB/2	1/2	001-05	複刻「金牛」

第194-9次調査

番号	器種	形態	出土遺物	調査時 遺物名	重量(g) 重さ(g)	測定・技法の特徴	加工成 立成	色調	保存度	登録番号	備考	
1	土師器	鍋	-	旧通過土	2.6	外面：ハラ、タケズリ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	にぶい灰E7.05V/4	1/2	001-02	外面に縦付着	
2	土師器	羽茎	-	旧通過土	2.4	測定口付 底盤	直 良	灰白5.58/2	1/2	001-01	内外面に縦付着	
3	陶器	皿	-	旧通過土	3.4	外面：ハラ、ナゲ、ヨコナダ 内面：ナゲ、貼付ヨコナダ、オサム、ヨコナダ	直 良	灰白5.58/2	1/2	002-04	買入あり	
4	陶器	碗	-	旧通過土	5.5	外面：ヨコナダ、ナゲ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ、ナゲ	直 良	輪：灰E22.57BB/2	1/2	002-05	買入あり	
5	陶器	便	-	旧通過土	5.5	外面：ヨコナダ	直 良	浅黄色	1/2	001-04		
6	陶器	碗	-	旧通過土 器底	9.1	外面：貼付高台、施釉焼付	直 良	輪：施釉9.06 底盤：灰E10.07/1	2/2	002-03		
7	陶器	碗	-	旧通過土	12.6	外面：貼付高台、施釉焼付	直 良	輪：木標903 底盤：灰E11.07/2	2/2	002-02		
8	陶器	碗	-	2個	残高	2.3	外面：ヨコナダ、自然釉	直 良	灰白5.57/1	1/2	002-06	山茶碗
9	土師器	鍋	-	9~10cm 西朝 水差 丸足下	1.5	外面：ヨコナダ	直 良	にぶい灰E7.05V/4	1/2	001-05		
10	陶器	碗	-	底盤 火照 丸足下	3.6	外面：ヨコロケズリ、貼付高台、ヨコナダ 内面：施釉(鉢底)、ヨコナダ	直 良	輪：千葉茶碗13 底盤：灰E12.57BB/2	1/2	001-03	火口	
11	陶器	碗	-	ハンド ボール 企立	2.9	外面：ヨコロケズリ、贴付高台、ヨコナダ 内面：施釉(鉢底)	直 良	輪：千葉茶碗13 底盤：灰E12.57BB/1	1/2	002-01	茶碗	

第4表 第194次調査 出土遺物一覧表(2)

付編 史跡現状変更等許可申請

平成30年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、42件である。発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め13件で、内訳は、県が実施する史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが11件である。

42件の申請の内、発掘調査を行わなかった29件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものや、すでに発掘調査が行われている箇所での申請であった。なお、基礎掘削工事等にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課職員並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施している。

平成30年度の申請の内容は、一覧表（第5表）のとおりである。これらの申請は、（A）個人等による申請、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

22件の申請があった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた7件（第194-4・5・6・7・8・10・11次調査）について調査を行った。他の15件については、住宅解体や工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

11件の申請があった。内容は、電気・通信関係や、排水路・道路の改修等であり、工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

7件の申請があった。全て明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものである。その中で、発掘調査が必要な4件（第194-2・9・10・12次調査）について調査を実施した。

（D）発掘調査のための申請

2件の申請があった。これは三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第193・195次調査）で、計534.5m²が調査された。調査内容は斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

順位	申請地			種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
	大字	小字	地番等								
1	竹川	中畠内	420.422番1	D	三重県知事 鈴木英敬	免震調査	H30.4.11	H30.5.18	204.5m ²	2	第193次調査
2	竹川	東裏	353	A	個人	浄化槽埋設	H30.4.16	H30.5.18	24.6m ²	4	第194~5次調査
3	斎宮	木葉山	131番2	C	明和町(斎宮跡・文化観光課)	免震調査	H30.4.20	H30.5.18	186m ²	3	第194~2次調査
4	斎宮	木葉山	128番3	A	個人	ブロック塀設置	H30.4.20	H30.5.14	79.6m ²	4	
5	斎宮	藤林	3147番2,3148番2 出上室 323番42	A	個人	住宅建築	H30.5.1	H30.6.15	339.07m ²	3	第194~4次調査
6	竹川	花園	地内	C	明和町(斎宮跡・文化観光課)	敷策路整備	H30.5.21	H30.7.20	L=57.3m	2	第191~10次調査
7	竹川	中畠内	456	A	個人	住宅解体	H30.6.11	H30.6.20	1棟	4	
8	竹川	花園 越戸	地内	C	明和町(斎宮跡・文化観光課)	敷策路整備	H30.6.14	H30.7.20	L=139.2m	3	第194~9次調査
9	竹川	中畠内	474番1	D	三重県知事 鈴木英敬	免震調査	H30.6.18	H30.7.20	330m ²	2	第195次調査
10	斎宮	笛川	1057番1,2,3,41050番1	A	個人	住宅建築	H30.6.29	H30.9.21	2308.92m ²	4	第194~7次調査
11	斎宮	内山	304番1	A	個人	浄化槽埋設	H30.7.3	H30.7.20	3m ²	4	第194~6次調査
12	斎宮	西加座	地内	B	明和町(防災企画課)	消防栓設置	H30.8.11	H30.7.18	2.2m ²	1	
13	斎宮	東前沖	地内	C	明和町(斎宮跡・文化観光課)	排水管設置に伴う水道管確認	H30.7.4	H30.7.18	16m ²	3	
14	斎宮	鶴山	地内	B	明和町(まち整備課)	道路改修	H30.7.5	H30.7.18	43m ²	2	
14	斎宮	牛屋	地内	B	(株)西日本電信電話 三重支店店長	電話柱建設等	H30.7.10	H30.7.27	1本	3	
16	斎宮	楽殿	268番2	A	個人	住宅建築	H30.7.18	H30.9.21	419m ²	3	第194~8次調査
17	斎宮	楽殿	2880番3	A	個人	住宅建築	H30.7.18	H30.9.21	459.33m ²	3	
18	斎宮	下園	2928番5	A	個人	住宅解体	H30.9.3	H30.9.19	1棟	4	
19	斎宮	木葉山	131番2	C (明和町 (斎宮跡・文化観光課))	史跡整備	排水管設置に伴う水道管確認	H30.9.11	H30.10.19	615m ²	3	第194~2次調査
19	竹川	祇戸	700.702.719.720.地内						1棟	3	第194~12次調査
20	斎宮	桜木山	地内						1基	3	
20	竹川	東裏	352番1,351番2,351番3								
21	斎宮	牛屋	3399番1,3	A	個人	住宅建築	H30.9.13	H30.10.19	500.42m ²	3	第194~10次調査
22	竹川	東裏	363番1,363番3	A	個人	ブロック塀改修	H30.9.28	H30.10.11	8m ²	4	
23	竹川	花園	659番7	A	個人	住宅建築	H30.10.19	H30.11.16	316.08m ²	3	第194~11次調査
24	竹川	祇戸	743番,743番地先	B	(株)西日本電信電話 三重支店店長	電話柱建設等	H30.10.19	H30.10.26	2本	3	
25	斎宮	笛川	2359	A	個人	建物解体	H30.11.5	H30.11.16	2棟	4	
26	斎宮	牛屋	323	A	個人	建物解体	H30.12.3	H30.12.5	1棟	4	
27	斎宮	西加座 東前沖	地内	C	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	排水路改修	H30.12.8	H31.1.18	L=508m	1 2 3	
28	竹川	祇戸	700.703.704	C	明和町(斎宮跡・文化観光課)	免震調査	H30.12.10	H31.1.18	1,330m ²	3	
29	竹川	中畠内	435番2,434番7	A	個人	樹木伐採	H30.12.10	H31.1.18	20本	3	
30	斎宮	牛屋	323	A	個人	住宅建築	H30.12.11	H31.1.18	17m ²	4	
31	斎宮	楽殿	地内	A	(株)ナントラ	カーブミラー移設	H30.12.19	H31.1.9	1基	3	
32	斎宮	雷川	地内	B	三重県知事 鈴木英敬	倒溝改修	H30.12.26	H31.1.15	L=85.0m	3	
33	竹川	花園	地内	B	三重県知事 鈴木英敬	排水管設置	H30.12.26	H31.1.15	L=9.18m	3	
34	竹川	花園	659番3地先	B	(株)明松ホーム	排水管設置	H31.1.8	H31.2.8	L=53.0m	3	
35	斎宮	東前沖	2476番	A	個人	建物解体	H31.1.25	H31.2.7	2棟	4	
36	斎宮	東前沖	2476番	A	個人	住宅建築	H31.1.25	H31.3.18	535.53m ²	4	
37	斎宮	中西	2748番3	B	明和町(人・構造生活環境課)	カーブミラー設置	H31.1.31	H31.2.7	1基	3	
38	斎宮	柳井田	4458	B	(株)中創電力 電力ネットワークカバニー 松阪営業所長	電柱及び支柱新設	H31.2.14	H31.2.26	3本	3	
39	竹川	東裏	273番地先	B	(株)西日本電信電話 三重支店店長	電話柱建設	H31.2.21	H31.3.4	1本	3	
40	斎宮	楽殿	2880番3	A	個人	駐車場造成	H31.3.5	H31.4.19	342.16m ²	3	
41	斎宮	木葉山	304番7	A	個人	住宅改築	H31.3.14	H31.4.19	275.05m ²	4	
42	斎宮	コウロギ 桜木山	地内	B	明和町(まち整備課)	コンクリート舗装	H31.3.13	H31.3.20	100.8m ²	3	

第5表 平成30年度現状変更等許可申請一覧



写真図版1 第194-1次 調査区1 全景（南から）



写真図版2 第194-1次 調査区2 全景（南東から）



写真図版3 第194-2次 調査区1 北トレンチ 全景 SB6850・SA6849（西から）



写真図版 4 第194-2次 SB6850（南から）



写真図版 5 第194-2次 SB6850 南西隅柱穴（北西から）



写真図版 6 第194-2次 SA6849 柱穴土層断面（南から）



写真図版 7 第194-2次 SD11265（北から）



写真図版 8 第194-2次 SD11265 土層断面（北から）



写真図版9 第194-2次 調査区1 西トレンチ 全景（北から）



写真図版10 第194-2次 調査区1 東トレンチ 全景（北から）



写真図版11 第194-2次 調査区1 南トレンチ 全景（東から）



写真図版12 第194-2次 調査区1 東トレンチ 東拡張部 全景（北東から）



写真図版13 第194-2次 調査区1 東トレンチ 西拡張部 全景（東から）



写真図版14 第194-3次 地点1 調査区2（南から）



写真図版15 第194-3次 地点1 調査区3（南東から）



写真図版16 第194-3次 地点2 調査区3（北東から）



写真図版17 第194-3次 地点3 調査区1（南から）



写真図版18 第194-3次 地点3 調査区2（西から）



写真図版19 第194-3次 地点3 調査区3（東から）



写真図版20 第194-3次 地点3 調査区4（東から）



写真図版21 第194-4次 調査区1 全景（東から）



写真図版22 第194-4次 SI11267 カマド 土器出土状況（東から）



写真図版23 第194-4次 SI11267 土坑 土器出土状況（南東から）



写真図版24 第194-4次 調査区2 全景（東から）



写真図版25 第194-5次 調査区1 全景（西から）



写真図版26 第194-5次 調査区2 全景（西から）



写真図版27 第194-6次 調査区 全景（南東から）



写真図版28 第194-7次 調査区7 全景（北西から）



写真図版29 第194-7次 調査区1 全景（北から）



写真図版30 同 調査区3 全景（北から）



写真図版31 同 調査区4 全景（北から）



写真図版32 第194-8次 調査区 全景（北東から）



写真図版33 第194-9次 調査区1 全景（南西から）



写真図版34 第194-9次 調査区2 全景（北東から）



写真図版35 第194-9次 調査区3 全景（北東から）



写真図版36 第194-10次 調査区 全景（北から）



写真図版37 第194-11次 調査区 全景（西から）



写真図版38 第194-11次 調査区 土層断面（南西から）



写真図版39 第194-12次 調査区1 全景（北西から）



写真図版40 第194-12次 調査区2 全景（南西から）



写真図版41 第194-12次 調査区1 土層断面（西から）



写真図版42 第194-12次 調査区2 土層断面（東から）

報 告 書 抄 錄

史跡 斎宮跡
平成30年度
現状変更緊急発掘調査報告

令和2(2020)年3月19日

編 集 斎宮歴史博物館
発 行 明 和 町
印 刷 光出版印刷株式会社
